

メッセージアウトライン

ヤコブの手紙 2:1~7 「人を差別してはいけない」

[1]「私の兄弟たち。あなたがたは私たちの栄光の主イエス・キリストを信じる信仰を持っているのですから、人をえこひいきしてはいけません」

イエス・キリストは彼を信じるすべての人のために十字架上で死なれ、罪を贖ってくださった。その人たちの中には私たちも含めあらゆるタイプの人がいる。好感のもてる人々だけではなく、肉体や精神の病や心に重荷を負っている人、社会の底辺で生活している人、反社会的な生活をしてきた人等々。

イエス・キリストはご自身のもとに来るこのような人々をえこひいきや差別をされなかった。そうであるならば、イエスを自分の救い主と信じ、救われ、新しい者とされた信仰者も彼にならう必要がある。自分の考えやこの世の尺度で人をえこひいきしたり、偏見を持たないようにする。これが聖書が教えている新しい生き方。

[2-4]「あなたがたの会堂に、金の指輪をはめ、りっぱな服装をした人が入って来、またみすぼらしい服装をした人も入って来たとします。あなたがたが、りっぱな服装をした人に目を留めて、『あなたはこちらの良い席におすわりなさい』と言ひ、貧しい人には、『あなたは、そこで立っていなさい。でなければ、私の足もとにすわりなさい』と言うとすれば、あなたがたは、自分たちの間で差別を設け、悪い考え方で人をさばく者になったのではありませんか」

私たちは初代教会は立派な信仰の人々が多く、豊かに祝福されて成長していたと考えがちだが、当時の教会も現代の教会と同じようにさまざまな問題があった。→「使徒の働き」や「コリント人への手紙 I, II」等参照

それゆえ、そこには間違った考えで人を差別しさばく者がいたということは十分考えられる。しかし、それはクリスチャンとして正しい姿ではない。教会はイエス・キリストによってさまざまな差別や偏見から解放されている所であり、キリストにあつてあらゆるクリスチャンは兄弟姉妹であり、神の家族の一員である。やがて私たちがイエス・キリストの前に立つときが来る。その時、私たちが誇ることのできるものは、ただイエス・キリストが私たちを救ってくださったという偉大な事実のみであることを知っておかなければならない。

[5]「良く聞きなさい。愛する兄弟たち。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束されている御国を相続する者とされたのではありませんか」

この「貧しい人たち」とは文字どおり「お金も何もない貧しい人たち」と言う意味もあるが、もう一つの意味は主イエスがマタイ 5:3 で「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから」と言われているように、心が高慢や傲慢ではなくへりくだっている、謙遜である、心が砕けている人のことをも意味する。それゆえ、富める者であっても心の貧しい人であるならば、同様に救いに導かれ、御国を相続する者とされるのである。

神がこの世の貧しい者たちを選び、信仰に富む者とされたということは天地万物を支配される神のはかり知れないご計画によることである。→ I コリント

1:26~29

[6・7]「それなのに、あなたがたは貧しい人を軽蔑したのです。あなたがたをしいたげるのは富んだ人たちではありませんか。また、あなたがたを裁判所に引いて行くのも彼らではありませんか。あなたがたがその名で呼ばれている尊い御名をけがすのも彼らではありませんか」

ここではこの世の富める者の特徴が述べられている。

しかし、私たちクリスチャンはこのヤコブの警告のようにどのような人々が教会に加えられても、差別を設けることなく、えこひいきすることなく、私たちの主イエス・キリストの模範にならい、この世の価値観ではなく神の国の価値観をもって人々を愛し、受け入れていくことが大切である。